

第 34 回 原子力関連学協会規格類協議会 議事録

1. 日時 平成25年9月9日（月）10:00～11:30

2. 場所 一般社団法人 日本電気協会 4階A,B会議室

3. 出席者(敬称略,順不同)

出席委員：森下議長（日本機械学会 発電用設備規格委員会 委員長），宮野（日本原子力学会 標準委員会 委員長），関村（日本電気協会 原子力規格委員会 委員長），宮口（日本機械学会 発電用設備規格委員会 副委員長），波木井（日本機械学会 発電用設備規格委員会 幹事），新田（日本電気協会 原子力規格委員会 副委員長），越塚（日本電気協会 原子力規格委員会 幹事），小山（日本機械学会 発電用設備規格委員会 原子力専門委員会 委員長）

常時参加者：北山（日本建築学会），川崎（原子力安全基盤機構），伊藤（原子力安全推進協会）

代理出席：大沢（電事連・富岡代理）

オブザーバ：大鳥（土木学会），北西（日本電機工業会），船橋（火力原子力発電技術協会），当麻（土木学会），泉（電事連），東海林（非破壊検査協会），浦田（日本電機工業会），成宮（日本原子力学会），吉田（日本機械学会），河井（原子力安全推進協会），橋本（原子力安全推進協会），伊藤（東京電力），川西（三菱重工）

日本機械学会 発電用設備規格委員会 事務局 高柳

日本原子力学会 標準委員会 事務局 室岡

日本電気協会 原子力規格委員会 事務局 荒川，鈴木，国則，大滝，芝，富澤，田村

（34名）

4. 配付資料

資料 No.34-1 第 33 回 原子力関連学協会規格類協議会 議事録（案）

資料 No.34-2-1 今後の原子力規制委員会における民間規格の活用について（原子力規制委員会）

資料 No.34-2-2 「今後の原子力規制委員会における民間規格の活用について」を受けた対応（日本機械学会，日本原子力学会，日本電気協会）

資料 No.34-2-3 日本機械学会 設計・建設規格及び材料規格に係る技術評価の実施について（日本機械学会）

資料 No.34-3 標準活動検討タスクの報告（日本原子力学会）

資料 No.34-4 原子力発電所の耐震・耐津波性能のあるべき姿に関する提言（土木工学からの視点）について（土木学会）

資料 No.34-5-1 JSME 発電用設備規格「外部事象起因のシビアアクシデント対応設計ガイドライン」の概要他（日本機械学会）

資料 No.34-5-2 SAM 実施基準について他（日本原子力学会）

資料 No.34-5-3 原子力安全のためのマネジメントシステム規程 JEAC4111-201X 改定案について

て（日本電気協会）

資料 No.34-6 原子力関連学協会規格類協議会 幹事会議事概要(案)

参考資料-1 原子力関連学協会規格類協議会 名簿

参考資料-2 原子力関連学協会規格類協議会 運営要綱

参考資料-3 日本機械学会 発電用設備規格委員会 制定規格

参考資料-4 一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会 標準の策定と技術評価に関する状況

参考資料-5 日本電気協会 原子力規格委員会 策定規格

5.報告事項

(1)常時参加者変更及びオブザーバ,代理出席者の紹介

事務局より,常時参加者の変更及びオブザーバ,代理出席者の紹介があった。

(2)前回議事録確認

事務局より,資料 No.34-1 に基づき,前回議事録(案)について紹介があり,原案通り承認された。

(3)報告事項

1)「今後の原子力規制委員会における民間規格の活用について」への対応

事務局より,資料 No.34-2-1,2-2 に基づき,原子力規制委員会で報告された「今後の原子力規制委員会における民間規格の活用について」の説明及び3学協会の対応案についての報告があった。また,機械学会より,資料 No.34-2-3 に基づき,発電用原子力設備規格の技術評価の状況について報告があった。主な質疑・コメントは以下の通り。

- ・規制庁職員等の参画について,今後の対応をどのように考えているか。

機械学会では,常時参加者の位置づけを決めるため,9月の発電用設備規格委員会で,規約改定の提案を予定している。

9月の各学協会の委員会に規制庁から出席されると聞いているため,各学協会に対応することになると考える。

3学協会として,規制庁へ回答する必要がある。資料 No34-2-2 を規制庁に回答することとしたい。

2)標準活動検討タスクの報告

原子力学会より,資料 No.34-3 に基づき,標準活動検討タスクの報告があった。主な質疑・コメントは以下の通り。

- ・原子力学会では,岡本先生を主査に,標準活動検討タスクを立ち上げた。機械学会,電気協会からもオブザーバで参加して頂いている。オープンな議論で自由な意見・提案が出来るような活動を実施していきたい。

3)原子力発電所の耐震・耐津波性能のあるべき姿に関する提言(土木工学からの視点)について

土木学会より、資料 No.34-4 に基づいて、7月にとりまとめた「原子力発電所の耐震・耐津波性能のあるべき姿に関する提言」の報告があった。主な質疑・コメントは以下の通り。

- ・2つ質問がある。1つ目は、説明資料において原子力システム全体の理解が必要との記載があるが、提言の中でどのように触れているか。2つ目は、土木学会としても指摘されていたと思うが、経験したことと経験していないこと、この違いについてどう考えていくのか。技術分野の垣根を超えた連携との記載があるが、具体的な記載はない。これまでシンポジウム等で意見交換を実施して、土木学会として閉じないことが重要と認識している。今後も各学協会との意見交換等を実施していきたい。また2つ目の質問について、地震動・津波等経験していないことでも大きくなることは予想できるが 組み合わせのハザードを考えることは難しい。予測困難の事象にどう対応すべきかが課題と考えている。
- ・スケジュールについて確認したい。
7月30日に公表したが、今後は、例えば、土木学会の中の原子力土木委員会での活用に活かしていきたい。
- ・原子力安全に関して、本提言では、危機耐性がキーワードになっていると理解した。しかしながら、深層防護の第4層ではなく、設計段階での歯止めをどう考えているか。安全設計、土木設計等の人間がお互いに議論していくことが重要と認識している。
設計事象をどう決めるか、これまでも実施しているが、引き続き検討していきたい。

4)各学協会からの報告

各学協会から、以下のとおり、規格・規準の制改定状況等について報告があった。質疑・コメントは特になし。

)機械学会

- ・外部事象シビアアクシデント対策設備設計ガイドライン (BWR 編)
- ・設計・建設規格 (第 編) 事例規格 一般要求事項
- ・シビアアクシデント時の構造健全性評価ガイドライン (BWR 鋼製格納容器編)

)原子力学会

- ・原子力発電所におけるシビアアクシデントマネジメントの整備及び維持向上に関する実施基準制定案について
- ・原子力安全確保のための深層防護の考え方の検討状況

)電気協会

- ・JEAC4111 原子力安全のためのマネジメントシステム規程改定案について

5)協議会幹事会からの報告

事務局より、資料 No.34-6 に基づいて、原子力関連学協会規格類協議会 幹事会議事概要についての報告があった。質疑・コメントは特になし。

6.その他

- ・次回の協議会開催日時は、平成 25 年 12 月 11 日(水) 10:00 からとした。

以上